

平成24年

彦根市子ども議会会議録

11月  
(11月10日)

彦根市議会

## 彦根市子ども議会会議録総目次

11月10日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	2
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（10番 柏原舞依さん（河瀬小学校）、20番 宮川虎太郎さん（城陽小学校））	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
<b>1番 才原詩苑さん（金城小学校） 質問</b>	3
熱中症による被害を防ぐため、各教室にクーラーを設置することについて	3
辰巳教育部長 答弁	4
<b>2番 田中彩音さん（亀山小学校） 質問</b>	4
通学路の安全対策について	4
辰巳教育部長 答弁	5
<b>3番 辰巳稜真さん（金城小学校） 質問</b>	5
彦根市のいじめの実態といじめに対する取り組みについて	5
前川教育長 答弁	6
<b>4番 寺村伊織さん（若葉小学校） 質問</b>	6
市内の小・中学生が集い、いじめについて考える「いじめゼロサミット」の開催について	6
前川教育長 答弁	7
<b>5番 山下大貴さん（佐和山小学校） 質問</b>	7
いじめをなくすための取り組みについて	7
前川教育長 答弁	8
<b>6番 白川実優さん（若葉小学校） 質問</b>	9
平和を考える機会・場所づくりのため、被爆アオギリを公的な場に植樹することについて	9

萩野総務部長	答弁	9
<b>7番 松宮志音さん（城西小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>10</b>
彦根の観光（開催日数、イベント回数を増やすこと）について		10
志賀谷産業部長	答弁	10
<b>8番 北川裕之さん（城北小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>11</b>
彦根城の世界遺産登録に向けた取り組みについて		11
堀川企画振興部参事	答弁	11
観光客に彦根にとどまってもらう工夫について		13
志賀谷産業部長	答弁	13
<b>9番 梶本悠輔さん（城東小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>13</b>
外で遊べる場所を増やすことについて		13
寺嶋都市建設部長	答弁	14
<b>10番 柏原舞依さん（河瀬小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>14</b>
彦根市南部に図書館をつくることについて		14
前川教育長	答弁	15
<b>11番 辻 賢人さん（稻枝東小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>16</b>
市内の学校の雨漏りの点検と修繕をすることについて		16
辰巳教育部長	答弁	16
<b>12番 東野 悠さん（旭森小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>17</b>
困っている人の声を受け取り、改善するための取り組みについて		17
小川企画振興部長	答弁	17
<b>13番 中川千晟さん（城南小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>18</b>
ホッケーの練習施設を整備することについて		18
辰巳教育部長	答弁	18
<b>14番 河村翔太さん（城東小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>19</b>
交通安全対策（歩行者用信号機の設置、歩道整備、わかりやすい標識）について		19
寺嶋都市建設部長	答弁	19
<b>15番 鳥谷俊輔さん（高宮小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>20</b>
市民全員が参加する防災訓練を行うことについて		20
山田総務部危機管理監	答弁	20
<b>16番 西村友美さん（稻枝北小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>21</b>
「環境テーマパーク」をつくる等、稻枝の人口を増やすための市の取り組みについて		21
小川企画振興部長	答弁	22
<b>17番 田中ゆうきさん（平田小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>23</b>
彦根駅東口周辺での、ショッピングモール建設・今後の計画について		23

桑野都市建設部参事	答弁	23
<b>18番 田中海翔さん（稲枝東小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>24</b>
全教室にクーラーを設置することについて		24
辰巳教育部長	答弁	24
<b>19番 土田隆世さん（佐和山小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>25</b>
武将ブームを彦根の観光に活かすための市の取り組みについて		25
谷口文化財部長	答弁	25
<b>20番 宮川虎太郎さん（城陽小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>26</b>
給食室に残留放射能検査器を設置することについて		26
辰巳教育部長	答弁	26
<b>21番 村田真彩さん（稲枝西小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>28</b>
学校に専任の先生がいる相談室を設置することについて		28
前川教育長	答弁	28
<b>22番 竹村早織さん（城西小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>29</b>
城西小学校で行っているいじめのない学校づくりのような取り組みを全小学校で行うことについて		29
前川教育長	答弁	29
<b>23番 野坂 葵さん（城南小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>30</b>
外国人に彦根に親んでもらえる資料館を増やすことについて		30
谷口文化財部長	答弁	30
彦根に来たことが思い出に残るお土産を増やすことについて		30
志賀谷産業部長	答弁	30
<b>24番 谷 宣輝さん（旭森小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>31</b>
高齢者が安全・安心して暮らせる環境づくり、介護人材不足を解消するための取り組みについて		31
若林福祉保健部長	答弁	31
<b>25番 大久保美咲姫さん（鳥居本小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>32</b>
利便性を高くする鳥居本地域の振興策について		32
志賀谷産業部長	答弁	32
<b>26番 疋田実央さん（城陽小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>33</b>
鮎ずしを多くの人に食べてもらうための工夫について		33
志賀谷産業部長	答弁	33
<b>27番 武山優杏さん（高宮小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>34</b>
彦根独自のまちなみづくりについて		34
寺嶋都市建設部長	答弁	35
<b>28番 上野 愛さん（平田小学校）</b>	<b>質問</b>	<b>35</b>

観光ボランティアガイドの現状と今後の予定について .....	35
志賀谷産業部長	答弁 .....
36	36
<b>29番 野瀬竜声さん（河瀬小学校）</b>	<b>質問 .....</b>
36	36
学校にオリンピック選手やプロスポーツ選手を招くことについて .....	36
前川教育長	答弁 .....
37	37
子ども国会の報告について .....	37
津野あみるさん（若葉小学校） .....	37
野口七海さん（城西小学校） .....	38
閉会 .....	39

平成24年11月10日

11月彦根市子ども議会会議録

**【第1日】**

# 11月彦根市子ども議会会議録

平成24年11月10日（土曜日）

---

## 議 事 日 程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について（一般質問）
- 第4 子ども国会の報告について

---

## 本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について（一般質問）
- 日程第4 子ども国会の報告について

---

## 会議に出席した議員（29名）

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1番 才原詩苑さん（金城小学校）  | 16番 西村友美さん（稲枝北小学校）   |
| 2番 田中彩音さん（亀山小学校）  | 17番 田中ゆうきさん（平田小学校）   |
| 3番 辰巳稜真さん（金城小学校）  | 18番 田中海翔さん（稲枝東小学校）   |
| 4番 寺村伊織さん（若葉小学校）  | 19番 土田隆世さん（佐和山小学校）   |
| 5番 山下大貴さん（佐和山小学校） | 20番 宮川虎太朗さん（城陽小学校）   |
| 6番 白川実優さん（若葉小学校）  | 21番 村田真彩さん（稲枝西小学校）   |
| 7番 松宮志音さん（城西小学校）  | 22番 竹村早織さん（城西小学校）    |
| 8番 北川裕之さん（城北小学校）  | 23番 野坂葵さん（城南小学校）     |
| 9番 梶本悠輔さん（城東小学校）  | 24番 谷宣輝さん（旭森小学校）     |
| 10番 柏原舞依さん（河瀬小学校） | 25番 大久保美咲姫さん（鳥居本小学校） |
| 11番 辻賢人さん（稲枝東小学校） | 26番 疋田実央さん（城陽小学校）    |
| 12番 東野悠さん（旭森小学校）  | 27番 武山優杏さん（高宮小学校）    |
| 13番 中川千晟さん（城南小学校） | 28番 上野愛さん（平田小学校）     |
| 14番 河村翔太さん（城東小学校） | 29番 野瀬竜声さん（河瀬小学校）    |
| 15番 鳥谷俊輔さん（高宮小学校） |                      |

---

## 会議に出席した子ども国会議員

- 津野あみるさん（若葉小学校）                      野口七海さん（城西小学校）

### 議場に出席した事務局職員

事務局 長	辻	克	茂
事務局 次長	川	部	幸子
議事係 長	草	川	高章
書 記	小	林	芳浩
書 記	箕	浦	歩

---

### 会議に出席した説明員

市 長	獅	山	向	洋	さん	都市建設部長	寺	嶋	勲	さん	
企画振興部長	小	川	徳	久	さん	都市建設部参事	桑	野	正	則	さん
企画振興部参事	堀	川	英	雄	さん	上下水道部長	夏	原	眞	造	さん
総務部長	萩	野		昇	さん	病院事務局長	長	崎	隆	義	さん
総務部危機管理監	山	田	静	男	さん	消 防 長	岸	本	弘	司	さん
総務部参事	東		幸	子	さん	教 育 長	前	川	恒	廣	さん
市民環境部長	磯	谷	直	一	さん	教 育 部 長	辰	巳		清	さん
福祉保健部長	若	林	重	一	さん	文化財部長	谷	口		徹	さん
福祉保健部参事	川	嶋	恒	紹	さん	企画振興部次長	長	崎	敏	雄	さん
産 業 部 長	志	賀	谷	光	弘	財 政 課 長	馬	場	完	之	さん



午前9時00分開議

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 最初に議長をします鳥居本小学校の大久保美咲姫です。よろしくお願いします。

ただいまから平成24年11月彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

---

### 日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。  
会議録署名議員に10番柏原舞依さん、20番宮川虎太郎さんを指名します。

---

### 日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

---

### 日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

29名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番才原詩苑さん、2番田中彩音さん、3番辰巳稜真さん、4番寺村伊織さん、5番山下大貴さん、6番白川実優さん、7番松宮志音さん、8番北川裕之さん、9番梶本悠輔さん、10番柏原舞依さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問してください。

1番才原詩苑さん。1番才原詩苑さん。

○1番（才原詩苑さん） 猛暑、真夏日、この夏のニュースで何度も耳にした言葉です。二学期に入っても暑さはおさまることはありませんでした。そんな中、僕たちは毎日、運動会の練習をしていました。練習の後は暑い教室に戻り、授業が始まります。扇風機だけでは余り涼しくなりません。体力も気力も戻らず、授業に集中できませんでした。

また、今年の夏も全国では熱中症によりたくさんの方が倒れたり、気分を悪くしていました。滋賀県では、草津市や愛荘町などの学校で、熱中症対策のためにクーラーを設置しているそうです。だから、彦根市も扇風機だけでなく、クーラーを設置してほしいです。僕は来年の3月に卒業します。でも、在校生が暑い日でも快適に勉強ができるように、熱中症による被害を少しでも防ぐために、各教室にクーラーを設置してほしいです。

どうぞよろしく申し上げます。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 皆さん、おはようございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、才原さんのご質問にお答えいたします。

才原さんがおっしゃいますように、今年も夏場は非常に暑い日が続き、彦根市では最高気温が30度以上になる真夏日が46日あったそうです。このうち実際に授業が行われた日は22日あり、とても暑い中、授業を受けられたと思います。

彦根市内にある24の小・中学校のすべての教室は、理科室や音楽室といった特別教室を含めると全部で約650教室あります。これらの教室すべてにエアコンを設置するためには、金額で申しますと10億円近くの費用がかかるということです。そればかりでなく、エアコンを使用することによる電気代、壊れたときの修理代などの維持費が必要となります。これらの多くは、市民の皆さんの税金によって賄われることとなります。

また、東日本大震災による原発事故の影響で、電力供給が十分でないため、民間企業や皆さんのご家庭でも節電に取り組んでいただいていると思います。そのような中、学校へエアコンを設置することは消費電力の増加につながるようになります。

学校施設の整備は、皆さんが安全に安心して学校生活を送れるよう、古くなった校舎や体育館の改修、不審者から皆さんを守る門扉やフェンスの整備、車いすの方にも配慮したスロープの設置、トイレの改修など、エアコンの設置以外にも多くの事業があります。これらの事業を限られた予算の中で優先順位を考えながら進めています。このため、多くの費用が必要となる教室へのエアコン設置は、今のところは難しいと考えております。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 1番。

○1番（才原詩苑さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 2番田中彩音さん。2番田中彩音さん。

○2番（田中彩音さん） 私は、登下校の通学路について提案します。

私の通る通学路では、車がスピードを出して通り、危険を感じる場合があります。前には、朝歩いていると、後ろから来た車が私の20センチほどのところを後ろから走り抜けました。こちらは車に気づかず、ヒヤリとしました。こんな間近を車が通るので気が抜けません。

また、今年4月に京都府亀岡市の事件を聞き、危険な状態であることを自分たちから発信しなくてはという思いを持ちました。

そこで、通学路や子どもたちの通る道の制限速度をより遅く設定したり、看板をつけたりするなど、運転者がより注意をして運転するような取り組みをしてほしいと思います。これらの取り組みによって、歩行者だけでなく運転者にとっても安全な、みんなが過ごしやすい環境へとすることができると考えます。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 通学路につきましては、皆さんの安全を確保するため、これまでからも定期的に点検をしてきましたが、京都府亀岡市の事故を受け、市内すべての小学校から通学路の危険箇所を報告してもらい、学校、道路の管理者、彦根警察署、PTAの方々による合同点検を実施しました。

危険箇所は市内全部で103カ所、田中さんの亀山小学校ではそのうち3カ所ありました。現在は、その点検結果をもとに、道路の管理者や彦根警察署で歩道や信号機の整備等、できるところから順番に実施してもらっています。

田中さんから提案いただいたような道路の制限速度の決定、交差点での一旦停止の白線、とまれの標識や信号機の設置などは、交通規制と言いまして、彦根市では彦根警察署が交差点や通学路等の交通量や危険箇所などの調査を行った上で、必要性が高いと判断した場合に、滋賀県警察本部に報告し、最終的に滋賀県公安委員会が交通規制を行うかどうかを決定します。

一方、彦根市役所では、交通安全団体の方々と一緒に、マナーアップ運動として、月1回、運転者の方に交通ルールの徹底や歩行者に優しい運転についての街頭啓発を行ったり、交通安全啓発車を巡回し、安全運転を呼びかけたりしています。また、交通量が多く道幅が狭い道路については、歩道と車道の間にポールを設置するなどして、運転者に注意を促す取り組みを行っています。

今後も通学路において、車道と歩道の区別がなく、車がスピードを出して通るような場所については、田中さんが提案いただいたように、制限速度を遅く設定したり、道路標識等を設けて運転者に注意を促したりするなど、学校や関係の自治会や市役所の道路河川課、交通対策課、さらに彦根警察署などとも話し合っ、できる限り改善するように努めていきます。

最後に、田中さんや他の上級生の方々が、今後も引き続き下級生の模範として交通ルールを守ることの大切さについて指導してくれることを期待しています。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 2番。

○2番（田中彩音さん） これで私の提案を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 3番辰巳稜真さん。3番辰巳稜真さん。

○3番（辰巳稜真さん） 金城小学校、辰巳稜真です。

僕は、彦根市のいじめ対策について質問します。

毎日のようにいじめに関するニュースが報道され、悲しい思いをしています。

僕は、現在、代表委員会の委員長をしています。その取り組みとして、金城小学校では、自分たちの学校からいじめを起こさないように、「いじめなし 金城っ子宣言」という取り組みをしています。シンボルマークも決めました。各学級で、みんな一人ひとりが宣言用紙に署名し、いじめをしない、させないクラスや学校を目指しています。これがその宣

言用紙です。これがシンボルマークです。

そこで、質問なのですが、彦根市のいじめの実態とそれに対する取り組みについて教えてください。また、提案ですが、いじめをなくすために、彦根市でもいじめに対するシンボルマークをつくってはどうか。このシンボルマークのもと、大人も子どもも一緒になっていじめのない社会をつくっていくことを強く望みます。

ご回答をよろしくお願いします。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 彦根市のいじめの実態ですけれども、学校でいじめが発生したときは、ただちに教育委員会に報告することになっています。この調査によりますと、小学校では、今年度4月から9月までの数字ですが、6件のいじめが発生しています。その内容は、からかい、嫌なことを言われる、仲間外れにされるなどです。

これらのいじめに対する取り組みですけれども、学校の先生方には、子どもたちがいじめに悩んだり、いじめを発見したりしたときに、いつでも安心して相談できる学級・学校をつくるようお願いしています。また、いじめのアンケート調査を学校ごとに定期的実施してもらって、いじめの早期発見に努めているわけです。

いじめは放っておくとどんどんエスカレートしていきます。ぜひアンケートに協力してください。そして、学校にどうしても言えないときには、教育委員会に電話相談の窓口をつくっていますから、23-7867という番号に、いつでも相談してください。

教育委員会ではこのようにして取り組んでいます。辰巳さんの言うように、皆さん方がいじめを許さないという強い思いを持って、自分たちで話し合い、いじめをなくすために行動を起こすということがとても大切で、私はとても感心して、辰巳さんの意見を聞かせてもらいました。

辰巳さんたちはシンボルマークをつくることを提案してくださっていますが、これは本当に素晴らしいアイデアだと思います。シンボルマークについては、校長先生たちとも話し合っていて、実現に向けて検討したいと思っています。また、ほかの学校でもいろいろなアイデアを出し合っていて取り組みを進めていますから、各学校のアイデアを交流し合う場を設け、いじめの撲滅のための取り組みの輪を広げていきたいと思っています。

これからもいじめをなくすために素晴らしいアイデアをどんどん出してください。教育委員会としても、皆さんの活動を全面的にバックアップしていきますので、よろしくお願いします。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 3番。

○3番（辰巳稜真さん） これで僕の質問を終わります。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 4番寺村伊織さん。4番寺村伊織さん。

○4番（寺村伊織さん） 今、全国の小学校や中学校で、いじめの問題がニュースになっています。そこで、私たちは「いじめゼロサミット」という、いじめについて市内の小・中学生が交流できる場を持つことを提案します。

私たちの若葉小学校では、「いじめゼロアクションプラン」という取り組みを進め、各クラスでいじめについて話し合いをしたり、いじめを出さないためのアクションをどのように取り組んでいけばいいかを考えたりしました。クラスみんなが意見を出し合うことで、いじめは絶対に許されないこと、いじめは周りの友達の気づきや助けで解決できることなど、いじめに対する意識がとても高まったように感じます。

そこで、若葉小学校だけでなく、ほかの小・中学校にもこの取り組みを広め、彦根市の小・中学校全体でいじめについて真剣に考え、その話し合った内容などを交流できる場があれば、彦根市の小・中学校全体でいじめについて考えることができると思いました。もしかすると、この彦根市でも、苦しい思いやつらい思いをしている小学生がいるかもしれません。そんな気持ちを持つ人がなくなれば、彦根市からいじめはゼロになると思います。

彦根市の小・中学生みんなでいじめについて考えられる場があればいいと思います。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 寺村さんの通っている若葉小学校では、学校からいじめをなくしていくために、先生や児童の皆さんがさまざまな取り組みをなされていると校長先生から報告を聞いています。

その中で、新聞でも若葉小学校の取り組みが報道されていましたが、10月1日に全校集会を開催し、全学級が「いじめゼロアクションプラン」を宣言し、その宣言を各学級に掲げて、いじめのない学校づくりに取り組んでいच्छゃると聞いています。

寺村さんの学級である6年2組では、「いつでも、だれにでも、手を差し伸べられる勇気を持とう」ですね。この気持ちを忘れないでください。いじめのない学校づくりを、先生と一緒に進めてください。私たち教育委員会も応援しています。

若葉小学校6年2組の提案の「いじめゼロサミット」についてですが、小・中学生がいじめに対する意見交換やいじめをなくすための取り組みについての話し合い等、大変有意義なものだと考えています。中学校では、市内の中学校1年生全員がひこね市文化プラザに集まり、ほかの学校の紹介や各校の代表の意見発表を聞く「中学生広場」というものを開催しておりますが、この場でいじめ防止につながる取り組みができないか、検討しているところです。

小学校では、来年度、「彦根市いじめゼロサミット」を開催し、その内容を子ども議会につなげていけるような形を目指して、校長先生方とも協議しながら取り組んでいきたいと思っています。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 4番。

○4番（寺村伊織さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 5番山下大貴さん。5番山下大貴さん。

○5番（山下大貴さん） 今年、同じ滋賀県の大津市で、中学生のいじめ自殺問題が大きく報道されました。僕は、この事件を聞いて、彦根市でもこのような問題はないのか知

りたくなりました。身近なところでの出来事であり、来年中学生になるので気になります。また、いじめに遭ったり、いじめを見たらどうすればいいのか、いじめをなくすためにどうしたらよいか、何か彦根市では対策がありますか。

僕は、先日、テレビで、ある市役所の中にオンブズパーソンという相談窓口があり、子どもが困ったことがあれば相談できる取り組みをしていて、効果を上げているというのを知りました。オンブズパーソンというのは、スウェーデンの言葉で、困っている人を助ける人たちという意味だそうです。

電話で相談できるものはほかにもありますが、このオンブズパーソンは専門の人たちが調査してくれ、学校にも来たり、話し合いをしてくれたりして、徹底的に解決してくれるそうです。学校の先生や親に言っても解決しない問題も、市役所が間に入って助けてくれるそうです。相談もフリーダイヤルや携帯電話、手紙やファックス、直接市役所に来るのでもよく、相談しやすく、子どもが元気に安心して暮らせるまちづくりをしていると聞きました。

その市の市長さんは、「子どもを大切にする社会はみんなが幸せになる社会で、それをつくるのは大人の責任です。いじめは社会全体の問題であるので、学校だけでなく市が取り組むべきことです」と言われていました。僕はこれを聞いて、とても頼りになり、安心した気持ちになりました。

彦根市でもこのような仕組みがあればすばらしいと思ったので、提案します。

僕の通う佐和山小学校では、「いじめストップ宣言」を全クラスで取り組んでいます。また、僕は企画委員長をしていて、企画委員会で「いじめ0！ふわふわ言葉大作戦」を全校に呼びかけています。言われてうれしくなる、気持ちが温かくなるふわふわ言葉をたくさん使い、心が傷つくとげとげ言葉はみんな使わないようにしています。

彦根市全体でもこのような考えが広まって、一人ひとりの人権を尊重し、いじめがない明るい彦根市になれば大変うれしいです。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 山下さんが心配されている彦根市におけるいじめ問題がどうなっているのかということについてですが、今年4月から9月まで、小学校では6件の報告を聞いています。その中身は、嫌なことを言われたり、されたりするというものです。中には、たたかれたり、けられたりするというものもあります。中学校では、同じく6件の報告があり、仲間の中で1人の生徒の悪口をメールで流し合っていじめるといった陰湿なものもありました。

私は、こういうことは絶対に起こしてはいけないという強い思いで、すぐにその学校と連絡をとり合ったり、担当の先生を学校に派遣したりして、速やかに解決するよう全力で取り組んでいます。そして、私は、皆さんに自分たちの力でいじめをなくすための運動をしてもらったり、保護者の方に子どもたちが規則正しい生活を送れるように働きかけること、学校の先生方には専門の先生からいろいろ教えてもらっていじめ問題への対応力を

つけてもらうように取り組んでいるところです。

さて、山下さんのおっしゃったオンブズパーソンの提案ですが、まず私が知ってもらいたいのは、これに代わる制度として、彦根市でも、小学校には「ふれあい相談員」、中学校には「生徒指導ハートフルサポート指導員」を派遣しています。いじめなどで悩んでいる人の相談や援助をしてもらっています。また、電話相談の窓口も教育委員会につくって対応しています。

でも、やはり皆さんを身近で見守り育てていただいている先生方に相談してもらうことが一番だと思います。皆さんが困ったときは、先生方はいつも皆さんの立場に立って考えてくださいますから、どうか安心して先生にまずは相談してください。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 5番。

○5番（山下大貴さん） これで僕の提案と質問を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 6番白川実優さん。6番白川実優さん。

○6番（白川実優さん） 私たちは、公共の場や彦根城に被爆アオギリを植樹し、彦根市の皆さんに平和について深く考えてもらう場をつくることを提案します。

被爆アオギリとは、1945年に広島市に落とされた原子爆弾の被害を受け、傷を負いながらも新しい芽を出し、今も生き続けている木です。この被爆アオギリから生まれた種が今、被爆アオギリ2世、3世となり、全国に広がりつつあります。私たちの若葉小学校にも、被爆アオギリ3世があります。

私たちはこれまで、近くの幼稚園や保育園を訪問し、被爆アオギリについて紙芝居や劇などで知らせたり、植樹をしたりして、平和の大切さや人の命の大切さなどを伝える活動をしてきました。この活動を市内にもっと広げるために、公共の場や彦根城に被爆アオギリを植樹できないかと考えました。観光客の方々や彦根市内の方々、たくさんの方々に被爆アオギリを知ってもらい、平和の大切さや人の命の大切さについてもっと考えてもらいたいと思っています。

彦根市の平和のシンボルとして被爆アオギリを植樹すること、また彦根市の皆さんが平和について深く考えられる場をつくることを提案します。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 総務部長。

○総務部長（萩野 昇さん） 被爆アオギリを通して平和や命の大切さを学習されている若葉小学校の取り組みは、とてもすばらしいものだと思います。

本日の子ども議会においても後ほど報告いただけるようですが、今年の7月に国会議事堂で開催された子ども国会でも、若葉小学校の児童が学校の取り組みを紹介され、その後、横路衆議院議長、平田参議院議長と面談し、お二人に被爆アオギリの苗木を手渡されたことも新聞記事で読ませていただきました。

今回、白川さんから提案いただきました被爆アオギリの植樹は、観光客や市民の皆さんに平和の大切さ、命の尊さについて考えていただくよい機会になると考えています。ただ

し、アオギリは成長すると高さ10メートルから15メートルになる落葉高木であることから、どこに植えるかは十分に考えなければなりません。

まず、白川さんから提案のあった彦根城の区域ですが、ここは文化財保護法という国の法律により特別史跡に指定されており、この法律によって守られた地区は基本的に現在の形を変更することが認められておらず、変更する場合は文化庁の許可を得なければなりません。現在、彦根城の区域は、計画に基づいて江戸時代の形に近づくよう整備を進めており、江戸時代に存在しなかったものは設置することができないことから、被爆アオギリの彦根城の区域への植樹は困難であると思います。

次に、公共の場への植樹については、例えば荒神山公園などの都市公園において、大きく育つ被爆アオギリの植樹にふさわしい場所や管理の方法などについて検討した上で、若葉小学校の先生方や必要に応じて植樹候補地の近隣の皆さんのご意見も伺いながら対応してまいりたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 6番。

○6番（白川実優さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 7番松宮志音さん。7番松宮志音さん。

○7番（松宮志音さん） 私は、彦根の観光について、次の二つのことを提案します。

その一つ目は、ゆかたまつりなど、彦根市だけでできるイベントは、1日ではなく2日間にするということです。楽しみにしていても、日程が合わなかったり、友達と一緒に行けなかったりするので、よりたくさんの方が集まれるようにするためには、その日が複数ある方がよいと考えるからです。

二つ目は、ほかの市や町からの参加を募る、ゆるキャラまつりのような、大人も子どもも楽しめるイベントの回数をできるだけ増やすことです。私たちの学級では、日本各地の有名な食べ物を食べることができるイベントを彦根でも開催できるとよいと考えました。

イベントに参加することをきっかけに、国宝彦根城を見てもらうとともに、キャッスルロードや四番町スクエアを訪れてもらい、彦根のよさをたくさんの人に知ってほしいと思います。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 彦根の観光についてお答えします。

最初に、イベントの開催日数を増やすことについてのご質問ですが、本市では、ゆかたまつりやゆるキャラまつり、あるいは城まつりパレード、鳥人間コンテストなど、年間を通じてさまざまなイベントを展開しています。これらの開催には、各種団体やボランティアガイドなど、多くの人の協力が不可欠です。また、道路を使うイベントでは、周辺住民の生活や一般の方の交通に支障が生じることも考えなければなりません。本市では、こうしたことも考慮しながら、春の桜まつりや彦根夏の陣、小江戸彦根の城まつりのように、



季節ごとにイベント期間を設け、その中で規模に応じて1日だけのものや2日間開催するものなどを企画しています。

次に、大人も子どもも楽しめるイベントの回数を増やすことについてですが、大人だけでなく子どもも楽しめるイベントは、家族連れで彦根を訪れていただけ、子ども時代の楽しい思い出は大人になってからも来ていただくことにつながります。今年で60回となるお城まつりパレードには、大人も子どもも参加いただいております、ご家族で見物に来られております。また、7月に開催した「彦根城でサムライを極める」では、全国からたくさんの親子連れに参加いただきました。今後も戦国武将やアニメ、映画など、さまざまな分野の新たな素材を取り込んで、見るだけでなく体験して楽しめるイベントを企画してまいります。

ご提案の日本各地の有名な食べ物を食べるイベントでは、「交流都市と彦根の観光と物産展」を開催しており、今年は北海道松前町から九州の長崎市まで9市5町に参加いただき、多くの来場者でにぎわっています。そのほかにも、「ひこね井祭」や「彦根ラーメングランプリ」なども開催されており、たくさんの方に参加いただいております。

これからもさまざまなイベントをきっかけに、彦根を訪れていただき、彦根城や美しいまちなみ、彦根の食などを知っていただけるようPRに努めてまいります。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 7番。

○7番（松宮志音さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 8番北川裕之さん。8番北川裕之さん。

○8番（北川裕之さん） 彦根市は、滋賀県の中でも重要な役割を担う都市です。その彦根市の役割を十分果たしているかどうか、疑問に思うことがあります。学校で学んだ彦根市の歴史が余り有名ではないような気がするからです。

そこで、二つのことを考えました。

一つ目は、彦根城が世界遺産に登録されるように、もっと働きかける必要があります。彦根市民は世界遺産登録について関心を持っているのでしょうか。彦根城のよさだけでなく、彦根の古いまちなみの保存やキャッスルロードの新たな開発などに取り組み、世界遺産登録について市民の意識を高めるといいと思います。

二つ目は、観光客が彦根にとどまって、彦根のよさを満喫できるような工夫が必要だと思います。例えば、彦根城と佐和山をロープウェイで結んで、夢のある歴史を散策できるようにしたり、ひこね市文化プラザで魅力のある事業を開催したり、ついこの前開催されたゆるキャラまつりのようなイベントを多く開催したりするなど、大胆な発想も必要だと思います。井伊直弼、石田三成、佐和山城跡などをもっと活用すればいいと思います。そうすれば、彦根を訪れた人が彦根にとどまるのではないのでしょうか。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 企画振興部参事。

○企画振興部参事（堀川英雄さん） まず初めに、彦根城の世界遺産登録に向けた取り

組みについてお答えします。

彦根城は、世界遺産の候補として、国がユネスコに提出した世界遺産暫定リストに掲載されています。国は、このリストの中で準備ができたところから、世界遺産にふさわしいとしてユネスコへ推薦し、そこで審査される仕組みになっています。

彦根市では、大学の先生や専門家の皆さんに集まっていただき、彦根城世界遺産登録推進委員会という会議で、彦根城を世界遺産にするための戦略を話し合ったり、彦根城についての調査研究をしています。また、ほかの国宝天守を持つ松本城や犬山城と一緒に、日本の城としての世界遺産登録についても研究を続けており、そこでも世界遺産や城の専門の先生方と登録についての調査研究や検討会議を行っていて、あらゆる可能性を考えて取り組みを続けているところです。さらに、国の文化庁へも、彦根市の取り組みや世界遺産登録のための準備状況を毎年報告していて、できるだけ早く世界遺産に推薦してもらえよう働きかけをしています。

一方、市民の皆さんや観光客の皆さんに、彦根城が世界遺産候補であり、登録を目指して取り組みを進めていることをもっと知っていただくように、「彦根城を世界遺産に」と書いた看板を彦根駅構内と市役所駐車場前に設置したり、世界遺産のパンフレットも作成しています。また、文化財課が実施する出前講座では、彦根城が世界遺産にふさわしい価値があることをわかりやすく説明しています。

市民活動の事例としては、今年の2月に、国際理解を深め、世界平和を目指すユネスコ憲章の理念に基づいて、彦根ユネスコ協会が設立されました。現在は、市民の皆さんを中心に212会員の方々が活動されておりますが、その大きな活動の一つが、文化財の保護や世界遺産への理解に関するものです。

彦根ユネスコ協会では、7月には歌舞伎役者の坂東三津五郎さんを講師に「彦根城世界遺産登録推進講演会」を開催され、多くの市民の皆さんに彦根城のすばらしさや世界遺産への取り組みを改めて知ってもらうことができましたし、10月には奈良の世界遺産をめぐる見学会も行われました。

さまざまな活動により、世界遺産に対する市民の皆さんの機運の盛り上げに一役買っています。

そのほか、市では、彦根城だけでなく城下町として、現在市内に残っている古いまちなみを保存する取り組みも進めています。例えば、河原町の花しょうぶ通りや芹町の一部に残っている伝統的なまちなみを保存するために、市では2年をかけて調査を行い、彦根市伝統的建造物群保存地区保存条例を制定しました。現在は、専門家の先生を交えて、住民の皆さんとどのように保存するかという計画について話し合いを進めているところです。

いずれにしましても、北川さんがおっしゃるように、彦根城を世界遺産に登録するためには、市役所だけでなく、市民の皆さんが地域の宝である彦根城を大切に、未来へ残していこうと思っていただくことが大切です。市としても、彦根城を初め城下町に残る文化財を保存し、次の世代へ引き継いでいくために取り組みを進めてまいりますので、市民の

皆様のご理解とご協力をお願いします。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 続きまして、観光客に彦根にとどまってもらう工夫についてお答えします。

まず、彦根に訪れた人が彦根のよさを満喫できる例として、彦根城と佐和山をロープウェイで結ぶことをご提案いただきましたが、彦根城の中堀から内側の全域が国の特別史跡に指定されているため、ロープウェイを設置することはできません。ただ、ご提案のように、佐和山と彦根城をもっと結びつけるような工夫は必要と考えますので、二つの場所をロープウェイでつなぐのではなく、観光客に両方の歴史散策ができるルートを紹介するなど、他の方法でご提案に応えるようにしたいと思っています。

その一つに、イベントでは、石田三成が登場する公開中の映画「のぼうの城」をテーマとした佐和山周辺での「三成の戦」や、長浜市、米原市と連携した「戦国武将スタンプラリー・三成の跡」などに取り組んでいます。これらのイベントでは、彦根城だけでなく、佐和山一帯にあるさまざまな史跡をめぐるだけいただけるよう工夫しています。

次に、ひこね市文化プラザで魅力あるイベント等を開催するというご提案は、そこで行われるイベントを機会に、遠方から彦根へ来られた方が観光名所へ足を延ばしていただけるきっかけにもなると思います。昨年は、ひこね市文化プラザで行われた落語ライブとコラボレーションした宿泊パックを実施しており、ほかにも井伊直弼や石田三成ゆかりの史跡がたくさんありますので、近年の戦国武将ブームを背景に、彦根の魅力を発信する絶好のチャンスととらえ、斬新な発想でより多くの方に当市にとどまっていただけるよう企画に力を入れてまいります。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 8番。

○8番（北川裕之さん） これで質問を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 9番梶本悠輔さん。9番梶本悠輔さん。

○9番（梶本悠輔さん） 僕が彦根市の皆さんに提案したいことは、公園や広場などをもっと増やしてほしいということです。

なぜかと言うと、最近の子どもが外で遊ばなくなった理由の一つとして、外で遊ぶ場所が少ないからということがあると思います。もちろん今の子どもが家の中でゲームなどをよくするようになったという理由もあると思いますが、遊べる場所を増やせば、外で元気に遊ぶ子が増えるのではないのでしょうか。遊具のある公園、キャッチボールやサッカーのできる広場、このような場所があればみんな満足に遊べると思います。そして何より、外で遊ぶと気持ちがいいし、友達との遊び場も増えて、家の中ばかりで遊んでいたときよりも楽しくなります。さらに、外で遊ぶと日光に当たる時間が増えるので、骨が丈夫になり、風邪を引きにくくなると聞いたことがありますので、なおさら外で遊ぶ方がいいと思います。

だから、もっと外で遊べる場所を増やしてほしいです。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（寺嶋 勲さん） 梶本さんの外で遊べる場所を増やすことについてのご提案にお答えします。

彦根市には、荒神山公園や庄塚公園のように、大型遊具が設置され、キャッチボールやサッカーなどいろいろなスポーツを楽しめる広場のある大きな公園から、ブランコやすべり台が設置されている団地の中の小さな公園まで、その広さや目的によってさまざまな種類の公園や広場があります。

梶本さんが住んでおられる城東学区には、比較的大きな公園としては、外馬場公園と大東公園があり、複数の遊具が設置されています。しかし、この二つの公園には、キャッチボールやサッカーなどの球技ができるようなグラウンドや広場の整備はされておりません。球技ができる近くの公園としては、東山公園や千鳥ヶ丘公園などとなります。

現在、城東学区内にこのような球技ができる公園を新たに造る計画はありませんが、市内各小学校のグラウンドを活用することは可能となっていますので、このようなグラウンドを有効に利用して、梶本さんが思っているように、元気に遊び、日光をいっぱい浴びて、丈夫な体をつくっていただきたいと思います。

なお、彦根城に隣接する金亀公園では、より多くの市民の皆さんに使っていただけるよう、現在、古くなった大型遊具の取り替えや広場の改修を昨年度から順次実施していますので、休日などにはご家族の方々と一緒に、新しくなった遊具を使って遊んだり、施設を活用していろいろなスポーツを楽しんでいただきたいと思います。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 9番。

○9番（梶本悠輔さん） これで僕の提案を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 10番柏原舞依さん。10番柏原舞依さん。

○10番（柏原舞依さん） 私は、彦根市の南の方にも図書館をつくることを提案します。

私は、河瀬小学校区に住んでいます。彦根市立図書館は市内の北の方にあり、遠いため、利用しづらいです。私は本をよく読みますが、図書館にはなかなか行けません。

ところで、長浜市には図書館が六つあるそうです。彦根市と長浜市とを比較すると、彦根市は人口約11万人に一つの図書館ですが、長浜市は人口約2万人に一つの図書館です。したがって、彦根市では、図書館で本を借りたくても、利用者が多くて本がないということも起きるのではないのでしょうか。図書館の場所が北の方に偏っていることと、一つの図書館当たりの利用者が多いことから、市内の南の方にも図書館をつくった方がいいと思います。

図書館が近くにできると、今まで図書館に行かなかった人たちも本に興味を持つようになります。そして、本を読むと心が豊かになります。たくさんの方が本を読むことで、彦

根市はもっと活気のある温かいまちになるのではないのでしょうか。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 図書館は、読みたい本を借りたり、疑問に思うことを調べたりする人に対して、だれもが、どこに住んでいても、平等に利用できるように努めなければなりません。

でも、まず知っておいてほしいことがあります。彦根市では、近年は学校の図書室の充実に大変力を注いでいます。毎年、多くの本を幅広くそろえて、読書活動や調べ事にも役立つように努めています。まずは、学校の図書室をもっと利用してほしいと思います。そして、読みたい本がもし見つからなければ、図書の担当の先生に相談してください。それもとても大事なことだと思います。

さて、ご質問のように、彦根市には図書館が北の方に一つしかないため、図書館から離れたところには移動図書館のたちばな号で、市内52カ所を回っています。しかし、移動図書館では利用時間が限られているので、これまでも南の方に二つ目の図書館をつくってはどうかという話が出ていました。

ご質問の例に挙げられている長浜市は、もともとは一つしかありませんでした。でも、市と町の合併によって六つとなったのです。彦根市立図書館では、1人でも多くの人に本を読んでもらうために、貸し出しの予約を受け付け、返す約束の日を決めたり、返ってきた本はすぐに並べて、ない本はほかの図書館から借りてきたりして、少しでも早く皆さんに順番に見ていただけるようにしています。また、彦根市では、近隣の町と協力し合って、新しい図書館をつくることを検討するため、さまざまな意見をお聞きしているところです。

柏原さんたちの学級の提案にもありますように、新しく図書館をつくるに当たっては、南北に長い彦根市の地形を考えると、現在の図書館と南の方に一つでもよいのか、交通の利便や身近に利用してもらいやすい範囲、どんな方法がよいかなどを考え、市全体を見渡して配置のバランスや規模はどうか、どんな活動ができるのか、どのくらいのお金がかかるのかといったいろんなことを話し合う必要があります。

そして、たくさんの方が図書館に通い、本を読む機会が増え、本に興味を持って、心豊かに暮らしていただけるような、だれもが利用しやすい図書館の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） 10番。

○10番（柏原舞依さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（大久保美咲姫さん） しばらくの間休憩します。

午前 9時50分休憩

午前10時00分再開

○第2グループ議長（山下大貴さん） 議長を交替しました。佐和山小学校の山下大貴

です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第2グループの順番は、11番辻賢人さん、12番東野悠さん、13番中川千晟さん、14番河村翔太さん、15番鳥谷俊輔さん、16番西村友美さん、17番田中ゆうきさん、18番田中海翔さん、19番土田隆世さん、20番宮川虎太郎さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問してください。

11番辻賢人さん。11番辻賢人さん。

○11番（辻 賢人さん） 私は、市内の学校の雨漏りの点検と修繕をすることを提案します。

私の通っている稲枝東小学校は、父や母が子どものころからある学校で、先輩方も大切に使ってこられました。また、私も6年間お世話になり、校舎に愛着を感じています。しかし、建物の老朽化も進んでおり、いろいろなところが壊れています。先日の台風では、天井から雨漏りがあり、低学年と6年生の体操服や体育館シューズがぬれました。また、雨漏りした場所はすべりやすく、とても危険です。

私はもうすぐ卒業ですが、思い出の詰まった学校を後輩たちにも長く使ってもらうには、壊れた箇所や危険な箇所の修繕が欠かせません。市内にはこのような問題を抱えている学校が幾つもあると思います。私たちが、後輩たちが、安全に安心して学習に取り組めるように、雨漏りの点検と修繕を求めます。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 辻さんが毎日通学されている稲枝東小学校を含めまして、彦根市には昭和50年代に建てられ、30年以上が経過している小学校が多くあります。このため、施設の老朽化は進んでいますが、彦根市では、地震が発生したときに、皆さんの安全を守るため、まず校舎や体育館の耐震補強工事を優先的に行い、市内にある34の小・中学校と幼稚園の耐震化をすべて終わらせたところです。

辻さんのご質問にもありました校舎の雨漏りに限らず、施設等に不具合があれば、その都度修理し、対応はしています。施設の改修等の中で多くの費用や日数がかかる場合には、学校と十分話し合いを行い、予算を確保するなど、事前に計画を立てて取り組んでいます。また、部分的に補修が可能で緊急性のあるものについては、教育委員会の職員が現場に出向き、原因を調べて、工事業者に修理の手配をしています。

稲枝東小学校の今回雨漏れした箇所につきましては、学校からの連絡を受け、以前から職員および専門の業者が現場の確認を行っており、修理方法について検討しているところです。

これからも、皆さんが少しでも気持ちよく勉強できるよう、学習環境の改善に努めていきたいと思っています。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 11番。

○11番（辻 賢人さん） これで僕の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 12番東野悠さん。12番東野悠さん。

○12番（東野 悠さん） 僕は、彦根市では、困っている人や悩みのある人の声をどのようにして受け取り、改善されているかをお聞きします。

僕は今、旭森小学校で、ルールガード委員会の委員長をしています。ルールガード委員会では、なやみ箱を設置し、困っている人の声を受け取り、委員会で話し合っ、具体的にどう解決していくかを決め、ポスターや放送で呼びかけています。

最近では、ブランコを高学年ばかりが使って、低学年が使えなくて困っているという声があり、ポスターで呼びかけ、ブランコを見守りに行く当番を決めて、休み時間にルールを守れているかを見ることにしました。すると、高学年が低学年にブランコを替わってあげる姿も見られ、よかったと思いました。

このように困っている人の声から、ルールを決めて、生活をよくすることができると思います。彦根市でも、困っている人の声をどのように受け取り、改善されているかをお聞きします。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（小川徳久さん） ただいまの東野さんの困っている人の声を受け取り、改善するための取り組みについてお答えいたします。

まず、彦根市の施策や事業など、市が行っていること、市に行ってほしいことなどについて、市民の皆様からの意見や提案を直接お聞きする仕組みとして、東野さんの小学校にあるなやみ箱と同じように、市役所の1階ロビーに意見箱を設置したり、意見や提案を書いて切手を貼らずにそのまま郵便として送ることができる様式、これは「市政への意見・提言」という名前の仕組みとしていますけれども、これを「広報ひこね」の紙面に年2回掲載したり、また彦根市のホームページなどからも意見や提案を送っていただけるようにしており、市民の皆さんに活用いただいています。

これらの皆さんからいただいた意見などに対しましては、市の取り組みや考え方などを回答したり、市の政策に反映できるものは業務の改善を行うなどして取り組んでいます。

また、市民の皆さんが日常生活で悩んでいることや心配事などを相談できるように、弁護士による法律相談や、家や土地などの登記・相続の手続などに関する相談窓口を月1回設けているほか、国や県や市の行政に関する相談などの各種相談窓口を設けているところです。11月15日号の「広報ひこね」にも、そういった相談窓口の日時や場所を載せていますので、ご覧いただければと思います。

このほか、市民の方の悩み事やお困り事などの相談がある場合に、市に直接来ていただいたり、市に電話で連絡されたりする場合がありますけれども、こういった場合にも市のそれぞれの担当窓口で対応していますが、どこに相談してよいかわからない場合などは、市役所1階にあるまちづくり推進室で話をお聞きし、内容に応じた適切な窓口を紹介しています。

このように、市ではいろいろなところで市民の皆さんの意見やお困り事などを受け付けるところを設けていますので、知っておいていただきたいと思います。

以上です。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 12番。

○12番（東野 悠さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 13番中川千晟さん。13番中川千晟さん。

○13番（中川千晟さん） 僕の質問は、まずホッケーの練習場をつくってもらうことです。その理由は、彦根市のホッケープレイヤーが増え、今、彦根市にあるホッケーの施設が少ないので、彦根市の空いている土地を利用して整備してほしいと願うからです。

また、自分もホッケーをしています。小学校では彦根ワイルドキッズが全国大会で準優勝、中学校では南中学校が全国大会で優勝しています。このように、彦根市はホッケーが盛んです。ホッケー人口も増えており、練習環境を充実させる必要があると感じています。

彦根をホッケーのまちにするためにも、彦根市の施設としてホッケーの練習場を整備できないかを、僕の質問にさせていただきます。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 現在、彦根市内の小・中学生の皆さんは、スポーツ少年団活動や部活動、さらにクラブチームの活動として、野球、バレーボール、サッカー、そして中川さんがされているホッケーなど、多くの種目において活動されています。

それらの活動に当たっては、それぞれに専用の練習施設があればよいのですが、大きな用地が必要なほか、練習施設をつくるためや施設をつくってから維持管理をするために多額の費用をかけねばならず、難しいのが実情です。

そのため、屋外競技ですと、市の施設である金亀公園の多目的競技場や荒神山公園多目的広場、中川さんのお住まいの近くにあるグリーンピアひこねのグラウンド、または市内の小・中学校が開放している運動場などを譲り合いながら、有効に活用され練習されています。その環境の中で、中川さんがされているホッケーは、全国の大会で優れた成績をおさめられ、大変立派だと思っていますし、ご意見もよくわかります。

特定の競技専用の施設をつくるには多くの課題をクリアする必要があり、ホッケーのための練習場をつくることは現在のところ計画はしておりませんが、今後競技人口がますます増え、彦根市民に今以上に親しまれるスポーツとなれば、中川さんのようなご提案も実現できるかと思います。ホッケー競技の発展に向けて、さらに頑張ってくださいることを期待しています。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 13番。

○13番（中川千晟さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 14番河村翔太さん。14番河村翔太さん。



○14番（河村翔太さん） 僕たちのクラスで、交通安全について提案したいことが二つあります。

一つ目は、整備についてです。例えば、通学路にある交通量の多い交差点の中に、歩行者用信号機がないところがあるのでつけてほしいと思います。最近、交通量の多い交差点の歩行者用信号機で、いつ信号が変わるかがわかる信号機も見かけます。見た目によりやすいので増やしていただきたいと思います。また、彦根城の周りなど観光客が多いところで、歩道からはみ出して歩いている人をよく見かけます。みんなが歩道を歩くように、市の方でも少し指導をしてほしいと思います。

二つ目は、小学生でもわかりやすい標識をつくってほしいということです。クラスで話し合ったときに、自転車徐行の標識の意味がわからない人が何人もいました。子どもがよく通る道には、小学生でもわかりやすい言葉で標識をつけてほしいと思います。

僕たちも直さなければいけないこともあります。より安全に通行できるように、危ない、ヒヤリと感ずることを市でも改善してもらえたらと思います、このような二つのことを提案します。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（寺嶋 勲さん） 河村さんの交通安全のご提案についてお答えいたします。

まず、歩行者用信号機の設置につきましては、一般の信号機と同様に、地域の警察署が、交差点や通学路などの車や歩行者の交通量の調査を行った上で、必要性や危険性を考慮し、最終的には滋賀県公安委員会が設置の判断をされますので、通学路であっても歩行者の交通量が少ない交差点では、歩行者用信号機が設置されていないところもあります。

また、経過時間のわかる歩行者用信号機につきましては、歩行者の信号無視や無理な横断を防ぎ、より歩行者の安全性が高められる場合に設置が検討されます。彦根市内では、京橋や護国神社前の交差点にある歩車分離式信号機や将来歩車分離式への変更が検討されている信号機に対して、経過時間のわかる歩行者用信号機が設置されたところです。これからは歩行者の通行量の多いところなどは、必要に応じて経過時間のわかる歩行者用信号機を増やしてもらおうよう、滋賀県公安委員会にお願いしていきたいと考えています。

次に、彦根城周辺で観光客が車道にはみ出して歩いていることにつきましては、現在、滋賀県警察本部が中心となり、道路を管理する滋賀県や彦根市と協議して、「ゾーン30」という対策を進めており、近々実施される予定です。この「ゾーン30」とは、一定の区域内の道路で、車の最高速度を30キロメートルに規制するとともに、センターラインを消し、車道幅員を狭くして歩道を広げるなど、歩行者の安全対策を図るものです。この対策は住宅地以外での実施は全国的にも余り例がなく、今回、観光客を対象とした彦根城周辺でどれだけの効果があるか、注目していきたいと考えています。

次に、わかりやすい標識の設置につきましては、道路標識には、方向・方面・距離などを示す案内標識、踏切や交差点などを事前に知らせる警戒標識、駐車禁止や一時停止など

の規制標識があります。これらの標識は、形や色などが全国的に統一されており、独自で作成することはできません。しかし、河村さんの提案のように、だれにもわかりやすくすることは大切ですので、標識の補助的な役割として、危険なところには道路上に絵や文字、着色などを行い、わかりやすい安全対策を図っているところです。

今後も、だれもが安全で安心して通行ができるよう、警察などと連携し、対策を図っていきたいと考えています。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 14番。

○14番（河村翔太さん） これで僕の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 15番鳥谷俊輔さん。15番鳥谷俊輔さん。

○15番（鳥谷俊輔さん） 僕は、防災訓練について提案します。

彦根市では、もし災害が起こったとき、市民が主体的に行動して、少しでも被害を減らすことができるようにするため、市民にはどんな働きかけをされていますか。

東日本大震災が起こった年に、僕は石巻市を訪れ、現地の小・中・高生と交流しました。そのときに避難の様子について聞いたことが心に残りました。それは、だれが指示したわけでもないのに、若い人がお年寄りを背負ったり、小さい子を担いで安全なところへ逃げたということです。もし僕がその場にいたとき、同じような行動ができるかと少し考えさせられました。

実際に災害が起こったとき、お年寄りや体の不自由な方がなかなか自分で逃げることは難しいと思います。そこで、年に一度、市民全員が参加する防災訓練を行ってはどうでしょうか。僕も自分だけではなく、周りの人の安全も考えて行動していきたいです。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 総務部危機管理監。

○総務部危機管理監（山田静男さん） 鳥谷さんの市民全員が参加する防災訓練を行うことについてのご提言にお答えいたします。

まず、もし災害が起こったとき、市民にどんな働きかけをしているかにつきましては、市民が主体的に行動して、少しでも被害を減らすために、自分や地域は自分たちで守るという気持ちを皆さんに持ってもらうことが大切であると考えています。そのため彦根市では、防災訓練や防災展を開催するとともに、出前講座での説明や「広報ひこね」、彦根市のホームページなどで防災についてお知らせすることにより、市民の皆さんの防災意識が高まるよう努めているところです。また、自治会ごとに自主防災会という組織の設置を呼びかけ、地域の皆さんがともに助け合うことができるような仕組みづくりにも取り組んでいます。

さらに、要援護者支援制度といって、地震などの災害が起こったときに助けが必要なお年寄りや体の不自由な方を、ご近所や知人など地域の人の手助けにより安全な場所に避難していただくという仕組みづくりにも取り組んでいます。このことにより、自分だけで避難することが難しい方を、地域で協力して救出していただけるようにしているところです。

次に、市民全員が参加する防災訓練の開催についてお答えします。

彦根市では、毎年1回、国が定めている防災週間である8月の第4土曜日に、市内七つの中学校区を1年ごとに順番に回って、市全体の防災訓練を実施しています。この防災訓練では、地震や台風などの被害を想定し、避難訓練、消火や救出訓練、避難所での炊き出し訓練、電気やガス・水道などのライフライン関係の訓練など、たくさんの訓練を地域の住民、企業の皆さんと一緒に実施しています。

鳥谷さんが言われるように、市民全員が参加する防災訓練を行うことは、市民一人ひとりが防災意識を持っていただけることから大変必要と思いますが、市民全員が集まれる会場がないことや市民全員が参加できる日時の調整、限られた時間内で市民全員が参加する防災訓練の訓練内容をどうするのか、いろいろな問題があり、市民全員が一堂に集まって防災訓練を行うことは難しいと思います。しかし、毎年実施している彦根市防災訓練や各地域で実施する避難訓練などに、できるだけ多くの市民が参加していただけるよう努力したいと思います。

なお、鳥谷さんの地域や学校でも同様の訓練を定期的に行われていると思いますので、その際にはぜひ参加していただき、災害が起こったとき、お年寄りや体の不自由な方を安全なところへ避難できるよう行動していただきたいと思います。

以上です。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 15番。

○15番（鳥谷俊輔さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 16番西村友美さん。16番西村友美さん。

○16番（西村友美さん） 私たちが住んでいる稲枝北学区は、自然が豊かで、おいしい野菜やお米、また梨などもたくさん収穫される、とてもよいところです。でも、私たちの学校はどんどん子どもの数が減っています。そして、お年寄りの数は増えています。それはなぜなのでしょう。

調べてみると、稲枝北学区は、空いている土地にほかのところから来た人が新しく家を建てることができません。なのに、ここで育った若い人たちは、便利な都会へ行ってしまいうことも多いのです。

そこで、私たちのクラスでは、自然豊かで琵琶湖も近いすばらしい環境を活かしながら、この稲枝の地に多くの人たちが住みたいと思い、子どもがたくさん増えるような方法をいろいろ考えました。

まず、子どもが遊んだり、勉強したりできるようなテーマパークをつくりたい。それは、荒神山のふもとの曾根沼を干拓した土地を利用すればいいと思います。子どもが楽しく遊べる遊園地や琵琶湖の魚や生き物を観察できる水族館、そして図書館をつくり、いろいろな活動の中心になるようにするとよいと思います。そして、遊園地などは、この地域に住んでいる人は安く利用できるようにします。稲枝駅もきれいにし、定期的にバスを運行

することで、ほかのところからもたくさん観光客がやってくるようになります。そうすれば、スーパーなどもできて、おいしいお米や新鮮な野菜、彦根梨などもいつも買うことができるようになると思います。

でも、遊びに来た人たちがみんな自分の住む家に帰ってしまっただけでは何にもなりません。そこで考えたのが、私たちの地域に幾つもある空いている家や土地を、農業をしたいと思っている若い人たちに提供して、住んでもらえるようにすればよいということです。作物がつかれず、空いている土地も作物でいっぱいになり、稲枝地区の人口も増えていきます。

このままでは子どもがどんどん少なくなり、そのうちに学校がなくなってしまうのではないかと、私たちは心配しています。そのようなことになる前に、自然も豊かで、おいしいものがたくさんあり、すばらしい環境があるこの稲枝に、もっと人が住めるようにしてほしいと思います。

私たちの主張は、稲枝に、遊びや生活や学習の中心となり、子どもたちが集まりたくなる「環境テーマパーク」をつくってほしいということです。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（小川徳久さん） 西村さんからご質問いただいた少子高齢化の問題については、稲枝地域だけでなく、市全体としても大きな問題であると考えており、さらには全国でも多くの自治体の共通の課題となっています。そこで、彦根市では、昨年、平成23年度からおおむね10年間の市の取り組みの指針となる「彦根市総合計画」というものを策定し、市民憲章にある「風格と魅力のある都市の創造」をコンセプトに掲げ、彦根市に住んでいただける人を増やすための取り組みや観光などで彦根市を訪れていただける人を増やすための取り組みを進めていくこととしています。

西村さんからご指摘のありました遊園地や水族館のある「環境テーマパーク」などの施設整備も、彦根市に住む人、訪れる人を増やすための取り組みの一つとして考えられるところですが、稲枝地域は駅周辺や新海浜地区を除いて市街化調整区域という地域に指定されており、建物などの建設を制限して、田んぼや自然を残す地域となっていることから、新たに建物や家を建てるなどの施設整備が難しい地域となっています。

しかし、豊かな自然環境や荒神山古墳などの歴史文化遺産など地域の魅力がたくさんありますので、地域に必要な事業を実施していくとともに、地域の魅力を活かした取り組みを進めていくことが重要であると考えています。

その中で、本市における稲枝地域での取り組みの例としては、生活に必要な移動手段としての公共交通の関係では、現在、JR稲枝駅の駅舎改築と駅前周辺の整備計画を進めているところであり、平成27年度中には新しい駅舎を利用していただけるように取り組みを進めているところです。また、稲枝駅を出発点とした循環バスやバス路線から離れた地域に「愛のりタクシー」という予約型の乗合タクシーを運行することで、車を持たない住民の方でも交通に支障のないようにするための取り組みを進めています。

地域の魅力を高めるための取り組みとして、これまで県の施設であった荒神山自然の家

が昨年市に移管されましたので、荒神山公園や子どもセンターとも連携しながら、自然や歴史を体験していただくような事業を行っています。

また、市だけでなく、地域の方やさまざまな団体による取り組みも行われているところで、例えば、滋賀県では、「魚のゆりかご水田プロジェクト」として、田んぼや排水路にニゴロブナの稚魚を放流する体験を通じて、小学生が自然環境を維持することの大切さを学ぶ機会をつくる取り組みや、民間団体では、荒神山での親子ハイキングやドングリの苗木約1,000本を植樹するなどの自然体験、荒神山を通じた歴史を学ぶ機会をつくる取り組みなども行われています。

したがって、稲枝地域が施設整備の難しい地域であるということ、また本市としては、その地域にできる必要な事業を行うとともに、地域の魅力を高めるための取り組みやその支援によって、地域の活性化につなげていくことが重要と考えておりますので、今回ご提案のありました稲枝地域に「環境テーマパーク」をつくるといった施設整備などを実施する予定はありませんが、今後もこれまでの取り組みを進めながら彦根市の魅力を高め、その魅力を発信し、彦根市に住む人、訪れる人の増加につながるよう努力してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 16番。

○16番（西村友美さん） これで質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 17番田中ゆうきさん。17番田中ゆうきさん。

○17番（田中ゆうきさん） 私たちの住む彦根市は、彦根城を中心とする歴史・文化や豊かな自然に恵まれた素晴らしいまちです。私は、この彦根のいいところをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思います。そして、もっと活気のあるまちになってほしいです。そのためには、多くの人彦根に行ってみたいと思えなければなりません。

そこで、一つ提案があります。彦根駅にはきれいな東口が整備されましたが、駅の周辺は空き地ばかりでがらんとしていて、とても寂しく思います。そこに大きなショッピングモールを建設してはどうでしょうか。その中には、彦根のよさをPRするブースや体の不自由な人が働くお店があります。そうすれば、たくさんの方が働く場ができるし、市外から多くの方が訪れるようになると思います。

市では今後どのような計画があるのですか。お尋ねします。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 都市建設部参事。

○都市建設部参事（桑野正則さん） 田中さんの彦根駅東口周辺でのショッピングモールの建設・今後の計画についてのご提案にお答えします。

彦根市が彦根駅東口周辺で整備を進めているのは、土地区画整理事業といいます。この事業は、よりよいまちの環境をつくるために、土地所有者の皆さんに土地の一部を出していただき、道路・公園・河川などの公共施設を整備します。それにあわせて、土地の形を使いやすいように整える事業です。

この事業で新しく整備した土地は、もとの土地所有者の皆さんにお返しすることになります。それぞれの土地所有者がそれぞれに土地を利用されることになります。ですから、駅東地区には一つにまとまった大きな土地がありません。草津や竜王町に建設されました遊歩道に沿った商店街形式のショッピングモールや、大きな駐車場を備えた敷地を必要とする商業施設をつくることは難しいのではないかと考えています。

このような中で、彦根駅東口の駅前、現在は空き地になっていますが、ここの土地の一部につきましては、土地の所有者の方が商業施設や高層マンションという計画を持っておられます。ですが、ここ数年来、経済の状況が悪いことから、今すぐにこの計画を実現するのは難しい状況となっています。

田中さんの提案にあるように、人が働く場所ができ、彦根のいいところを多くの方に知ってもらい、交流する人たちを増やすことによってより活気のあるまちづくりを進めることは、とても大切なことだと思います。彦根駅東口の土地区画整理事業は、現在約60%まで進んでいます。今後できるだけ早くそういう公共施設を整備して、魅力あるお店にたくさん来ていただけるように、にぎわいのあるまちづくりが進められるよう、土地の所有者の皆さんや地元の方々と協力して取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上です。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 17番。

○17番（田中ゆうきさん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 18番田中海翔さん。18番田中海翔さん。

○18番（田中海翔さん） 私は、学校にクーラーを設置することを提案します。

私の学校では、特別教室などにはクーラーが設置されています。しかし、各教室には設置されておらず、夏場の暑い時期にはかなり暑くなります。2年前に扇風機を1台増やしてもらい、暑い日は合計3台の扇風機を使っていますが、風を強くしても余り涼しくなりません。その他、打ち水をしたり、緑のカーテンをつくったりして、暑さをしのごうとしていますが、ほとんど効果がありません。

7月から9月にかけては、暑い教室では室温が37度以上になるところもあります。この時期は、教室にいながら頭痛を訴える人が多くなります。水分補給も十分にしていますが、余りの暑さに熱中症のような症状になる人が毎日たくさんいます。

子どもの安全のために、どうか市内の全教室にクーラーを設置してもらえるようお願いいたします。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 田中さんがおっしゃったとおり、小学校には、皆さんの体調が悪いときに行く保健室などを初め、一部の教室にはエアコンが設置してあります。彦根市内には24の小・中学校があり、理科室や音楽室といった特別教室や少人数学級の

教室を含めると全部で約650教室ございます。これらの教室すべてにエアコンを設置するには、金額にして10億円近くの費用が必要となるばかりではなく、エアコンを使用することによる電気代、壊れたときの修理代などの維持費が必要となります。これらの多くは市民の皆さんの税金によって賄われることとなります。

また、東日本大震災による原発事故の影響で電力供給が十分でないため、民間企業や皆さんのご家庭でも節電に取り組んでいただいていると思います。そのような中、学校へエアコンを設置することは消費電力の増加につながるようになります。

学校施設の整備は、皆さんが安全に安心して学校生活を送れるよう、古くなった校舎や体育館の改修、不審者から皆さんを守る門扉やフェンスの整備、車いすの方にも配慮したスロープの設置、トイレの改修など、エアコンの設置以外にも多くの事業があります。先ほども税金の話をしました、これらの事業を収入と支出のバランスのとれた限られた予算の中で優先順位を考えながら進めています。このため、多くの費用が必要となる教室へのエアコン設置は、今のところは難しいと考えています。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 18番。

○18番（田中海翔さん） これで僕の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 19番土田隆世さん。19番土田隆世さん。

○19番（土田隆世さん） 僕は、今の武将ブームを利用して、歴史についてもっと深く考えられたらいいと思います。

彦根には、国宝彦根城や佐和山城などの歴史的に有名なものがたくさんあります。それらの近くに看板や旗を立てたり、子ども向けのナレーションや当時の周辺地図、資料館を増やせば、さらに歴史について関心を持つ人が増えると思います。そうすれば、彦根市に来てくださった観光客に、彦根市のよさや歴史の深さを知ってもらって、彦根を好きになってもらえると考えたからです。

このように、滋賀県以外の人にも彦根のよさをたくさん伝えたいので、彦根の歴史に関する施設や活動を増やすことを提案します。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 文化財部長。

○文化財部長（谷口 徹さん） 彦根市には、彦根城を代表とする多くの文化財があり、古いまちなみとともに落ち着いた歴史を感じることができます。また、佐和山城など、かつて歴史の表舞台となったところも多くあり、私たち彦根市民の誇りとなっています。

これらの文化財を説明する看板は、周囲の歴史的な雰囲気気につかかって建てていますが、まだ十分ではないと考えています。今後とも、少しずつ数を増やしていく必要があります。

土田さんご提案の子ども向けのナレーションがある施設はありませんが、学校の授業や子ども会などで申し込んでいただければ、私たち職員が皆さんの年齢に合わせてわかりやすく説明させていただきます。こうした利用はまだまだ少ないので、もっと増えることを

願っています。

彦根の歴史がわかる資料館としては、彦根城博物館、開国記念館、図書館、夢京橋あかり館、俳遊館など、たくさんの施設があります。この中で彦根城博物館には学習コーナーがあることをご存じでしょうか。学習コーナーには子ども用の図書も充実しています。質問も受け付けていますので、一度チャレンジしてみてくださいと思います。

最近、歴史に関心を持つ人が増えてきており、歴史を肌で感じられる観光地がにぎわっています。彦根城も去年はこれまでで3番目に多い81万人を超える人が訪れました。これは彦根の持つ歴史の奥深さが改めて見直されているからだと思います。また、彦根の皆さんが彦根の魅力を発信し続けてきた結果だとも感じています。今後はさらに多くの方が彦根の歴史あるいは彦根そのものを好きになってもらえるような活動が必要だと考えております。土田さんも彦根の歴史や文化財をしっかりと勉強して、彦根の魅力をたくさんの人に伝えていただけるようお願いしたいと思います。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 19番。

○19番（土田隆世さん） これで提案を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 20番宮川虎太郎さん。20番宮川虎太郎さん。

○20番（宮川虎太郎さん） 私は、給食室の残留放射能検査器の設置について提案します。

昨年、未曾有の大震災が発生し、東京電力福島第一原子力発電所が被災しました。そして、大量の放射性物質が放出され、農業、漁業に大きな被害を与え、人体への影響が懸念されました。

私は、ニュースで、放射能は蓄積し、完全に消えるまで数十年かかると聞きました。放射能には基準値があります。基準値を超えたものは基本的に出入りませんが、放射能が入ったものでも基準値以下なら出入ります。放射能は子どもに影響が出やすく、ごく少量でも被害を与えることがあります。給食はほぼ地元のものを使っているそうですが、すべてのものが地元のものとは限りません。国が法律で定めている線量より下でも、放射能はあるわけです。だから、学校給食の厳しい基準を市で作成し、残留放射能検査器を給食室に設置して、給食の安全性を確保した方がよいと思います。

以上の理由により、市内の給食室に残留放射能検査器を設置することについて提案します。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 教育部長。

○教育部長（辰巳 清さん） 宮川さんが新聞やニュースの報道などから勉強して質問された放射線は、これまでからも太陽などから届く宇宙放射線や、植物や岩石などから出る自然放射線などが、自然界には存在しています。放射線は、体に一度にたくさん浴びたり、長時間浴び続けたりすると、体が傷つけられ、それがもとで病気になってしまうことがあります。



昨年の東京電力福島第一原子力発電所の事故では、放射線を出す物質である放射性物質が大量に空気中や海に飛ばされたり、流されたりして、野菜や肉、魚などの食品中にたくさん入ってしまい、問題となっているので、宮川さんが心配される気持ちもよくわかります。

そこで、現在、食品中の放射性物質に関する検査は、少し専門的な話になりますが、国の原子力災害対策本部が定めた「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」を踏まえ、厚生労働省が示した「地方自治体の検査計画」に基づき、東北・関東の17都県で実施されています。この検査結果により、食品衛生法に基づく基準値を超える食品は、出荷制限などにより市場に流通しない、出回らないということになっています。

滋賀県においても、県内で流通している食品については、毎月定期的な放射性物質の検査が行われており、いずれも不検出となっています。また、厚生労働省では、食品中の放射性物質に係る基準値の設定において、子どもたちの安全に特に配慮して定めており、学校給食等の安全確保についても、給食を含めた朝・昼・夕の3食分の摂取量を考慮して基準値を計算していますので、給食も基準値に適合していれば安全性は確保されるとなっています。

このほか、市独自の方策としては、加工品や冷凍食品など教育委員会が共同購入するものにつきましては、校長、教頭、保護者、栄養の先生、調理員の代表で構成される物資選定委員会におきまして、現物を試食し、成分表を参考に、原材料の内容等を確認しながら選定しています。さらに、東北地方等からの食品を購入する場合には、販売者等を通じて改めて放射性物質の検査結果を取り寄せ、食材の安全性を確認しています。

これらのことから、学校給食に使用する食材は安全であると判断していますので、学校の給食室に残留放射能検査器を設置することは、現在のところ計画していません。

○第2グループ議長（山下大貴さん） 20番。

○20番（宮川虎太郎さん） これで質問を終わります。

ありがとうございました。

○第2グループ議長（山下大貴さん） しばらくの間休憩します。

午前10時48分休憩

午前10時57分再開

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 議長を交替しました。高宮小学校の鳥谷俊輔です。よろしくをお願いします。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第3グループの順番は、21番村田真彩さん、22番竹村早織さん、23番野坂葵さん、24番谷宣輝さん、25番大久保美咲姫さん、26番疋田実央さん、27番武山優杏さん、28番上野愛さん、29番野瀬竜声さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問してください。

21番村田真彩さん。21番村田真彩さん。

○21番（村田真彩さん） 私は、市内の小学校に専任の先生がおられる相談室が設置されることを提案します。

その理由として、一つは、今ある相談室では、普段はだれもいないので入ることはありません。専任の先生がおられると、友達関係などで悩んでいるときに気軽に相談することができるからです。

二つ目は、相談室ができることで、いじめられている人が初期の段階で相談できれば早く解決するからです。今、ニュースを見て、いじめ問題が話題になっていますが、先生がなぜもっと早くいじめに気がつかなかったのか、疑問に思っていました。この相談室があれば、解決していたかもしれません。

三つ目は、私の学校では保健の先生と相談することがあります。でも、病気やけがの人がいるのでゆっくりと話ができません。だから、週に1、2回だけでも専任の先生に来ていただけるとうれしいです。

いじめ問題を解決するためにも、ぜひ実現してください。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 私は、村田さんの提案には正直はっとさせられました。私は、学校で皆さんが悩んでいることや、だれかにいじめられて困っているときに、一番に相談してほしいのは先生だと思っています。ですから、学校の先生方が、皆さんにとって相談しやすく、何でも話しやすい先生でいてもらえるように、またそういう環境にしてもらえるよう、一層努力してもらふことが必要であると感じました。

さて、村田さんや皆さんがせっかく相談したいと思って相談室のドアを開けても、だれもいなければ大変寂しい気持ちになるのは、全くそのとおりだと思います。そこで、村田さんの提案のように、専任の先生ができるだけ相談室にいてもらえるようにしたいと思います。

現在、彦根市では、教育研究所から訪問教育相談員というカウンセリング専門の先生を各小・中学校に派遣しています。また、中学校にはスクールカウンセラーを1週間に半日程度ですが派遣しています。この訪問教育相談員やスクールカウンセラーが相談室にいてもらえる時間を増やしたいとまずは思います。ただ、朝から夕方まで毎日ずっと相談室にいてもらうのは大変難しいので、学校の先生にも協力してもらって、相談できる時間を増やせるように、校長先生にお願いしようと思います。そして、「何曜日の何時から何時まではどの先生がいます」ということを相談室のドアに札をかけたり、学校通信で紹介したりして、皆さんにとって相談しやすい相談室となるよう、学校ごとに工夫してもらえよう、これも校長先生にお願いします。

とても大切な提案をしてもらったので、ただちに学校や教育研究所に協力してもらって、困ったり、悩んだりしている人が利用しやすい相談室にしていきたいと思います。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 21番。

○21番（村田真彩さん）　　これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん）　　22番竹村早織さん。22番竹村早織さん。

○22番（竹村早織さん）　　最近、いじめに関するニュースを見聞きする機会が本当にたくさんあり、私たちと同じ小学校の仲間が心や体に傷を負ったり、命を落としたりさせられていることが、つらくて、くやしいです。

私たちの学校では、各学級でホットハート宣言という目当てをつくり、学級の仲間が嫌な思いをしたり、悲しい思いをしたりしないようにする実践をしています。この宣言文は教室や昇降口に掲示し、いつも意識できるようにしています。私たちの学級の宣言は、「友達も生き物も自分も大切にする」です。

私たちは、今後、児童会が中心となっていじめをなくす標語を募集し、合言葉として看板に書いて掲示し、全校の仲間が一つになっていじめのない学校づくりに取り組もうと考えています。この取り組みを市内全校で行い、彦根市の広報に紹介していただくなどして、広く市民の皆さんに私たちの思いを知ってほしいと思います。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん）　　教育長。

○教育長（前川恒廣さん）　　まず、今回、城西小学校の「ホットハート宣言」や「いじめをなくす標語」の取り組みについては、大変素晴らしい取り組みであると思います。また、城西小学校だけでなく、他の学校においても、児童会や生徒会を中心にしたさまざまな取り組みが報告されており、教育委員会としても、彦根市内の児童・生徒の皆様がいじめのない学級・学校をつくらうという力をととても頼もしく、また心強く感じています。このように、児童・生徒の皆様が自らの手でさまざまな取り組みを行っていくことは、いじめを許さない学校づくりにとって大変大事なことだと思います。

さて、竹村さんよりご提案の情報発信の件についてですが、まず学校では、学級、学年、学校通信、また児童会新聞などを活用して、地域の皆さんへ配布するなどで、「私たちの学校では、いじめをなくすためにこんなことをしています。地域の皆さんも協力してください」という呼びかけをしていただくのがいいのではないのでしょうか。

また、教育委員会としては、竹村さんのご提案をもとに、教育委員会のホームページにいじめに関する特集を特設したいと思います。そこに、城西小学校のいじめをなくす標語をはじめ、各学校のいじめをなくすためのいろいろな取り組みについて情報を集めて掲載し、広く市民の皆様を知っていただけるようにしたいと思います。

竹村さんのいらっしゃる城西小学校をはじめ、すべての学校・園において、ここにいる議員の皆さんの力も合わせて、みんながいじめを許さず、そしていじめのない学校をつくっていきましょう。貴重なご提案、ありがとうございます。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん）　　22番。

○22番（竹村早織さん）　　これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 23番野坂葵さん。23番野坂葵さん。

○23番（野坂 葵さん） 私が提案することは二つあります。

一つ目は、外国人の方にもっと彦根市に親んでもらえるように、彦根市や彦根城に関する資料館を増やしてほしいということです。私は、彦根のまちを歩いていると、さまざまな疑問が浮かんできます。だから、その疑問を解決できる施設が欲しいと思います。また、京都のように、外国人観光客の方を呼び込むことで、まちをさらに活気づけられるとも思います。

二つ目は、彦根市に来たことが思い出に残るお土産を増やしてほしいということです。今、彦根ではひこにゃんが人気です。しかし、ひこにゃんだけでなく、彦根の特産物を活かしたおいしいものを増やして、彦根ならではのものをもっとつくってほしいと思います。

私は、この彦根市がもっといいまちになると信じています。それを実現させるためにも、この子ども議会での提案が何かのきっかけになればいいと思っています。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 文化財部長。

○文化財部長（谷口 徹さん） 野坂さんのご質問のうち、一つ目のご質問にお答えいたします。

彦根市では、たくさんの外国人の観光客に来てもらえるように、インターネットの彦根市のホームページで、中国語、英語、ポルトガル語で、彦根の歴史や観光地の紹介を行っています。このほか、外国で旅行紹介をしている人を彦根に招待して、まちを案内し、彦根の魅力を外国で伝えてもらえるようにもしています。

実際に彦根を訪れた外国人観光客には、彦根のまちの歴史や文化財の魅力に触れることができるように、彦根城や彦根城博物館では、日本語のほか英語、中国語、韓国語などの外国語の説明板をつくったり、説明文を配布したりして、案内を行っています。昨年度につくりました英語版の「マンガ彦根の歴史」でも、彦根の歴史をわかりやすく英語で紹介しています。外国語で説明できるボランティアガイドの皆さんも何人もいて、外国人観光客に好評です。

それから、野坂さんが提案されましたように、彦根のまちを歩いている、そのまちの歴史や文化財などについて浮かんだ疑問が解決できる施設があるといいですね。実は、彦根の歴史を展示している彦根城博物館や開国記念館、彦根城などの文化財を調査している文化財課、あるいは彦根の歴史の本がたくさんある彦根市立図書館は、疑問を解決するためには大変便利な施設です。疑問が浮かんだときには、ぜひともこれらの施設を訪ねていただければいいかと思います。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 続きまして、彦根市に来たことが思い出に残るお土産を増やすことについてお答えします。

現在、彦根市には、さまざまな彦根銘菓や近江牛、湖魚、ひこにゃんグッズや彦根梨など、多くのお土産品があります。さらに、各お店では、お客様に喜んでいただくため、近

江牛や湖魚などを使った加工品の開発にも取り組んでおられます。また、彦根梨を加工した「なちやっぷ」や中華料理の高級食材として使われる野菜マコモタケの特産品化への新たな取り組みも始まっています。

彦根観光協会では、観光物産部会が中心となり、彦根銘菓を四季に合わせた新商品に変えたり、事業者と滋賀県立大学との共同により、鮎ずしのパッケージをデザイン性に富んだ魅力あるものを考案し、世界的なパッケージデザイン賞を受賞されるなど、思い出に残るお土産品の開発や宣伝に取り組んでおられます。

また、市制施行75周年事業で取り組んだひこね井では、近江米をベースに地元でとれる食材を使ったレシピを募集し、204件もの応募をいただきました。テレビや雑誌でも広く取り上げていただき、現在も実行委員会を中心に継続したキャンペーンを展開しています。

このように、特産物の開発に向けてはさまざまな工夫がされていますので、市としましては、これを1人でも多くの方に知っていただき、観光誘客につながるよう、あらゆる機会をとらえてPRを行っていきたいと考えています。

以上です。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 23番。

○23番（野坂 葵さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 24番谷宣輝さん。24番谷宣輝さん。

○24番（谷 宣輝さん） 日本の少子化は問題ですが、日本が長寿国であるということはずばらしいことだと思います。

お年寄りの方の中には手助けが必要な方がおられます。そういった場合は、老人ホームやデイホームなどの施設を利用したり、ヘルパーの方に家に来てもらったりしておられます。僕の親戚の方にも手助けが必要なおばあちゃんがありました。おばあちゃんが安全に安心して暮らせる環境が必要だと思いました。

また、この間ニュースで見たのですが、老人ホームが少ない、入所費が高いということで困っておられる方が多いということでした。また、ヘルパーのお仕事につかれておられる方も少ないと聞きました。

そこで、提案です。ヘルパーの方のお給料を上げてみてはどうでしょうか。そして、老人ホームなどの施設をもっとつくって、入所費を安くしてみてはどうでしょうか。そうすれば、ヘルパーのお仕事をされる方も増え、未来も明るく、日本も元気になると思います。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（若林重一さん） 谷さんから三つのご提案をいただきました。ありがとうございます。

まず、ヘルパーの方のお給料を上げてみてはどうでしょうかとのご提案についてですが、ヘルパーとは介護を必要とする方のお宅を訪問して、入浴や排せつ等の介護を行う方、い

いわゆるホームヘルパーのことと思います。ホームヘルパーの方の給料は、国が定める訪問介護に要する費用をもとに決定されており、市が独自に決めることができません。しかし、平成24年度、国ではサービスに要する費用の見直しがされ、全体で1.2%引き上げられました。さらに、ホームヘルパーの方の給料を改善するため、新たに処遇改善加算の制度ができ、待遇の改善も進められています。

次に、老人ホームなどの施設をもっとつくってはどうかとのご提案についてですが、老人ホームについては、特別養護老人ホーム、養護老人ホームおよび有料老人ホームなどがあり、ご提案の老人ホームは特別養護老人ホームかと思いますが、ご質問のとおり、入居を待っておられる方が多いのは事実です。特別養護老人ホームの施設整備については、本市で一定量の施設は必要と判断し、今年8月に1カ所、80床が開設されました。また、平成25年度にさらに1カ所、96床、また地域密着型の小規模な特別養護老人ホームは2カ所、58床を計画しており、平成26年度までに200床以上の増加を見込み、充実を図る予定です。

最後に、入居費を安くしてみてもどうかとのご提案です。先ほど述べましたとおり、入居の際のサービスに要する費用は国が定めるもので、市が独自に決めることができませんが、所得の低い方が入居できないことのないよう、入居費や食費を減額する制度もあり、今後も高齢者の皆様が安心して暮らせる環境づくりを進めていきたいと考えています。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 24番。

○24番（谷 宣輝さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 25番大久保美咲姫さん。25番大久保美咲姫さん。

○25番（大久保美咲姫さん） 私たちは、鳥居本学区にお店をつくってほしいです。なぜなら、交通の便が悪く、高齢者など車が使えない人が買い物に行けないからです。

鳥居本町内にお店を建てると、鳥居本の人しか行きません。だから、車がよく通る8号線に建てると、ほかの地域の人々も利用してくれると思います。そのためには、お店を建てるための土地が必要です。土地には用途が決まっていると聞きました。8号線沿いにはお店を建てるための土地が余りありません。土地をつくることは確かに難しいかもしれませんが、でも、高齢者や車が使えない人のためにも、今すぐでなくていいので、土地をつくってお店を建ててほしいです。地域の活性化のためにもよろしくお願いします。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 利便性を高くする鳥居本地域の振興策についてお答えいたします。

近年、低価格で品ぞろえの豊富なスーパーマーケットやショッピングセンター、コンビニエンスストアが市内各地にできたことにより、鳥居本地域のように商店の少ない地域が

多くなってきました。

ご質問のように、土地には都市計画法によって用途に制限がありますが、国道8号線についてはどんなお店でもというわけではありませんが、お店の建設は可能な用途地域となっています。ただ、お店の出店については、基本的に民間の方が商売として成り立つところを選んで出店されますので、採算がとれないところへの出店は厳しいかと思われま

す。しかし、近くにお店がないと、特に高齢者や車が使えない人など生活に困る方も多いた

と思いますが、地域によってはさまざまな工夫も考えられています。身近な例としましては、河瀬地域では、市・県の補助制度を活用し、空き店舗を借りて直売所「やさい館」を設置し、地域で運営され、地域の方々でにぎわっています。このように、地域の中で元気な方が主体になって支え合う工夫も大切なことかと考えます。また、市内の一部スーパーでは、地域の状況やニーズに対応して、無料のお買い物バスを運行される

ところや、自宅まで商品を届けるお買い物代行サービスを行っているところもあります。また、本市では、こうした交通弱者に対する支援策の一つとして、予約に応じて運転される愛のりタクシーを運行しています。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 25番。

○25番（大久保美咲姫さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 26番 疋田実央さん。26番 疋田実央さん。

○26番（疋田実央さん） 私は、鮎ずしを多くの人に食べてもらうための工夫をすることを提案します。

鮎ずしは、滋賀県の特産物の一つで、さまざまな栄養があり、しかも発酵食品なので保存期間が長く、腸の掃除もしてくれます。しかし、においがきついので、私は食べられないし、そういう人も多いと思います。

そこで、私は、鮎ずしに食べやすくする工夫をして、多くの人に食べてもらおうと考えました。食べやすくするというのは、においを抑える発酵の仕方を研究したり、鮎ずしに合う調味料・食べ方を開発したり、鮎ずしを使ったお菓子をつくったりすることです。その食べやすくなったものを学校給食に出すのもいいと思います。また、宣伝用のキャラクターをつくって、多くの人に興味を持ってもらうのもいいと思います。

私は、鮎ずしを多くの人に食べてもらうために、鮎ずしを食べやすくしたり、キャラクターをつくったりすることを提案します。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 鮎ずしを多くの人に食べてもらうための工夫についてお答えいたします。

鮒ずしには独特のおいと酸味があります。においや酸味は乳酸発酵の過程によるもので、製法上完全に抑えることはできません。しかし、現在、滋賀県水産試験場では、伝統的な製法の鮒ずしとは違った、水を使わないつけ方で発酵中のにおいを抑える方法なども研究されています。一方で、その伝統的な独特の風味が好んで食べている人もおられますので、一概ににおいがなくなればいいということでもないようです。

近年、鮒ずしの材料となる琵琶湖特産のニゴロブナは、琵琶湖の水質悪化やブラックバスなどの外来魚の影響で漁獲高が減っており、平成元年には約200トンとれていたものが、約40トン以下にまで落ち込んでいます。フナの資源回復のため、本市では魚のゆりかご水田でフナの稚魚の放流をしており、県下でも毎年1,000万匹以上の稚魚を放流していますが、十分とは言えません。このため、鮒ずしは非常に貴重で効果な食材となっており、供給量も十分でないため、学校給食に提供しにくい食材となっています。

一方、お菓子では、鮒ずしを練り込んだクッキーやパイが開発され、四番町スクエアなどで販売されています。また、生キャラメルやチョコレートもあるようですが、やはり若干の臭みは残っているようです。

また、キャラクターに関しましては、昨年2月に滋賀県立大学の学生により「ふなずきんちゃん」が製作されており、いろんな場所でPR活動をされています。

疋田さんのように、琵琶湖の環境や歴史に関心を持ち、鮒ずしに興味を持っていただくことは、鮒ずしを滋賀県固有の伝統の食文化として後世に伝えていく上で大切なことです。本市としましては、今後も資源の保護や特産品としての鮒ずしのPRに努めてまいります。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 26番。

○26番（疋田実央さん） これで私の提案を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 27番武山優杏さん。27番武山優杏さん。

○27番（武山優杏さん） 私は、今住んでいる彦根市が大好きです。日本国民ならだれもが知っている国宝彦根城があり、その周りには風情豊かな城下町が広がっています。彦根駅周辺の開発も進み、美しいだけではなく、便利で住みよいまちにもなりました。どの季節にもたくさんの観光客の姿を見かけるようになり、彦根市民としてうれしく思います。

しかし、彦根市には彦根城のほかにも多くの水田や山々、鳥居本や高宮には宿場の面影も残っています。私の住む高宮には中山道があり、昔から栄えてきましたが、もっとたくさんの人に古くから伝わるものよさや風情を知ってほしいと願っています。

彦根城周辺やキャッスルロードのように整備したり、近隣の市町村には見られないような彦根らしいまちなみを広げていったりすれば、高宮にもさらに多くの観光客に来てもらえると思います。

このような彦根独自のまちなみづくりについてどのように考えておられるのか、お尋ねしたいと思います。



○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（寺嶋 勲さん） 武山さんの彦根独自のまちなみづくりのご提案についてお答えいたします。

彦根のまちの特徴は、豊かな自然風土と歴史的な面影を残すまちなみとが一体的に調和した美しさにあり、これが市の全体イメージを印象づけ、彦根らしい景観の基本となっています。

そこで、彦根市では、市民一人ひとりの住みよさを高めていくために、平成19年6月から市内全域を良好な景観を保全育成する地域に定め、これらの地域の景観を次の世代に引き継ぐまちづくりに取り組んでいるところです。さらに、彦根城周辺の地域では、歴史ある建物の保存修理に取り組み、地域での祭りや伝統を後世に伝えるための新たな計画を定め、歴史と風格のあるまちづくりを進めているところです。

また、武山さんがお住まいの高宮町の高宮宿は、中山道67宿のうち64宿目に当たり、街道沿いの中心地として栄えた宿場町であります。現在でも街道沿いに残る宿場町としての建物や一の鳥居など、当時の歴史を感じることができる風情が数多く残っていることから、彦根市としても、これら地域の宝を核としたまちなみづくりを地域の皆様とともに進めていく必要があると思っています。

武山さんが提案されているように、このような彦根らしいまちなみを広げていくことは彦根の魅力向上につながるものであり、その結果、だれもが行ってみたい、また住んでみたいと思うまちになっていくものと考えています。

なお、良好なまちなみづくりにはまだまだ時間がかかりますが、引き続き、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、彦根独自のまちなみづくりを進めていきたいと考えています。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 27番。

○27番（武山優杏さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 28番上野愛さん。28番上野愛さん。

○28番（上野 愛さん） 私は、彦根のまちが大好きです。なぜなら、豊かな自然や文化が満ちあふれているからです。中でも、ひこにゃんの存在はいつも私たちに元気を与えてくれます。前に行われたゆるキャラまつりでも、ひこにゃん効果でとてもにぎやかでした。

私は、国宝彦根城を中心とした、この彦根の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。でも、詳しい説明を受ける手段が限られています。今活躍されている人力車などを利用すると、丁寧な観光ガイドを受けられますが、かなり高い料金を支払わなければいけません。

そこで、提案があります。彦根に訪れた人を温かく迎えるために、無料のボランティアガイドや外国語を話せるガイドを増やしてみてもどうでしょうか。そんなサービスがあれば

ば利用する人も多いただろうし、彦根に来る人も増えると思います。現在の状況やこれからの予定をお聞かせください。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 産業部長。

○産業部長（志賀谷光弘さん） 観光ボランティアガイドの現状と今後の予定についてお答えいたします。

現在、彦根ボランティアガイド協会には約70名のガイドが所属されており、事前の予約により、彦根城や城下町、佐和山城跡など、市内名所の案内に当たっておられます。また、土曜日と日曜日は、彦根城の表門付近にガイドが待機されており、予約なしでも申し込むことができます。ガイド料金は無料ですが、交通費として、ガイド1名当たり1,000円のご負担をいただくこととなっています。また、外国人観光客への対応としましては、英語、中国語、フランス語ができるガイドも約15名在籍されており、外国人観光客にもわかりやすい観光ガイドに努めておられます。

彦根ボランティアガイド協会では、日々、彦根の歴史や文化などについての勉強や観光客にわかりやすいガイドができるよう、おもてなし研修に加え、新たなボランティアガイドを育成するための養成講座などを開催するなど、観光ガイドの充実を図っておられます。こうしたお取り組みは、観光客をお迎えする上で大切なことですので、市として積極的な支援を行ってまいります。

また、彦根を訪れる人を温かくお迎えするのはボランティアガイドだけではありません。旅先で出会った地元の人に優しく丁寧に迎えていただけたかどうかは、旅の思い出や彦根の印象を大きく左右するものです。そういった意味では、市民一人ひとりの観光客に対するおもてなしの気持ちが大切です。したがって、彦根観光協会や彦根商工会議所、稲枝商工会や彦根商店街連盟などとも連携しながら、市民の皆様にもご協力いただき、「また彦根を訪れてみたい」と言ってもらえるよう取り組んでまいります。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 28番。

○28番（上野 愛さん） これで私の提案を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 29番野瀬竜声さん。29番野瀬竜声さん。

○29番（野瀬竜声さん） 僕は、学校にオリンピックやプロスポーツ選手を招くことについて提案します。

僕は、陸上競技やサッカーが大好きです。今年のロンドンオリンピックやサッカー中継を見ながら、選手の方と会ってみたい、すばらしい技を見せてほしい、上達するためのコツを教えてほしいという思いが大きく膨らみました。実際にあこがれの選手に会ったら、緊張してうまくしゃべれないかもしれませんが、もっともっとスポーツが好きになって、上手になろうと努力ができそうな気がします。また、スポーツ選手を目指している子どもたちにとっては、夢が一層膨らむことになると思います。

あこがれの選手から学んだことがきっかけで、将来この彦根からオリンピック選手やプ

ロススポーツ選手が育てば素晴らしいことだと思います。彦根市として、各学校に選手を招いていただけないでしょうか。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 教育長。

○教育長（前川恒廣さん） 野瀬さんの意見、気持ちはとてもよくわかります。実は国もそういうトップアスリートの人たちを学校に派遣する事業をやっています。ただ、残念ながら枠があって、今年、彦根市は4校が手を挙げてもらったのですが落選してしまいました。過去には、もとJリーガーや体操・水泳でオリンピックに出た人とか、バスケットボールの選手も来ています。こういうのは毎年学校から上げてもらって、私たちがそれを国の方に申請します。

多分、今、こういうトップアスリートの方はみんなホームページを持っていて、いろんなことを書いたりしています。どういう選手に来てほしいかをみんなで相談して、直接トライしてみる、チャレンジしてみるのもいいと思います。選手の方はみんなホットなハートを持っていますから、ただ単に来てほしいではなく、こういうことをしたいので来てくださいとか、何のために来てもらうのかをみんなで考えて、それを直接ぶつけてみるとうまくいくかもしれません。そういうことにトライしてみることも大事だと思います。

いずれにしても、トップアスリートの人たちだけではないですけども、活躍している選手に各学校に来てもらって、みんながスポーツや運動をもっとやりたいという夢につながっていけばいいと思います。先生もそういうことができるように応援しています。頑張ってください。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 29番。

○29番（野瀬竜声さん） これで僕の質問を終わります。

ありがとうございました。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 以上ですべての質問を終了します。

---

#### 日程第4 子ども国会の報告について

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 日程第4、子ども国会の報告についてを議題とします。

今年の夏休みに、東京の国会議事堂で子ども国会が開かれ、彦根市から2人の小学生の仲間が子ども国会議員として意見を発表されましたので、その報告をしていただきます。

最初に、若葉小学校、津野あみるさん、お願いします。津野あみるさん。

○（津野あみるさん） 私の小学校に、去年、福島県から市川晴仁君が一時避難してきました。短い間だったけど、クラスの仲間として2カ月間一緒に過ごし、私たちに元気と笑顔を与えてくれました。

晴仁君の姿からすごいと思ったことがありました。それは、どんなときでもずっと笑顔でいたことです。両親は介護士をされていて、施設の復興作業にとっても忙しかったので、晴仁君は親戚の家で過ごすことになり、若葉小学校に来たのです。両親と離れ、本当はつ

らいはずなのに、私たちの前ではずっと笑顔でいてくれたので、晴仁君の笑顔に毎日私たちが勇気づけられました。晴仁君の両親は福島の人たちにとって必要な存在だとわかっていたから、自分は我慢しようと思ったのかもしれませんが。

そんな晴仁君を見ていると、友達とのけんかもちっぽけなものだと感じられるようになりました。そして、毎日のように報じられる原発や放射線のこと、差別を受けている人がいることについて、おかしいと考えられるようになりました。福島県への風評被害、今、私の仲間がそんな偏見や差別の対象に遭っていることに、私は怒りが込み上げてきます。もっと被災地の安全性を考えて、みんなが復興に全力を尽くしてほしいと思います。復興に向けて今自分にできること、それは晴仁君から学んだ今までの自分の生活にあった当たり前をもう一度見直し、感謝の気持ちを持って、どんなときも笑顔を大切にすることです。いつか日本中が笑顔でいっぱいになってほしいです。また、震災を忘れず、二度と同じことを繰り返さないために、私たちにできることは何かを考え、行動することも大切だと思いました。

去年、広島から譲り受けた被爆アオギリの種を、晴仁君とベトナムのドクさんと一緒に植えました。原爆に負けずに元気に育つ被爆アオギリが、晴仁君の笑顔と重なります。被爆アオギリを育てることを通して、福島県の晴仁君とのつながり、笑顔を大切にす、それが苦しいときの強さに変わると私たちは信じています。

子ども国会当日、会場に晴仁君が来てくれました。一緒に植えた被爆アオギリを晴仁君の小学校で受け継いでもらえるよう渡しました。衆参両議院の議長さんにもお会いして、直接、被爆アオギリの苗を渡すことができました。これからも日本中に笑顔とアオギリの木が育つよう、私は願っています。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん） 次に、城西小学校、野口七海さん、お願いします。野口七海さん。

○（野口七海さん） 私は、7月29日、30日に、滋賀県代表の1人として、子ども国会に参加してきました、城西小学校5年生の野口七海です。

これから、私が国会の子ども委員会で提案してきました一部を発表したいと思います。

子ども国会のテーマは、「東日本大震災からの復興と私たちの未来」です。

私たちの学校から、この国会で、「絆の『わ』プロジェクト・笑顔いっぱい・友達いっぱい大作戦」を提案しました。この運動は、全国の小学校が被災された小学校一つ一つとつながりを持つとするものです。

まず、手紙での交流を通して、被災された小学校とつながりを持ちたいと思います。私たちのように被災された地域から離れたところに住む小学生が、この取り組みをきっかけにして友達になっていこうとするものです。

被災された小学校と私たちのようにつながりを持ちたいと願っている小学校とが、お互いに手紙をきっかけにして双方向につながりを持ち、一人ひとりがお互いのことを知り、顔の見える関係の友達になりたいというものです。そうすることで、一つの小さな「わ」

がつながり合い、大きな日本全国に広がる絆になり、お互いが元気に笑顔になれることにつながっていくということを提案しました。

子ども委員会の後、7月30日に、私は参議院本会議場で子ども委員会の委員長として委員会報告をしました。私たちの委員会では、二つの提言をまとめました。一つ目、私たちみんなが震災のときの気持ちを忘れず、ボランティア活動など、今できることを考えて行動することが大切である。二つ目、すべての地域の人たちが交流を深め、地域のつながりを強くすることで、安全・安心に暮らせるまちをつくることを望むという内容です。

これから、城西小学校は、宮城県名取市立閑上小学校とつながっていく絆プロジェクトを進めていきます。

私は、子ども国会という大舞台で大変緊張しましたが、堂々と話すことができました。この子ども国会の経験は、私の自信となって、一生忘れないと思います。このような機会を与えていただいた皆様に感謝しています。ありがとうございました。

これで私の報告を終わります。

○第3グループ議長（鳥谷俊輔さん）                      以上で報告を終了します。

これで平成24年11月彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時42分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	大久保	美咲姫	
第2グループ議長	山下	大貴	
第3グループ議長	鳥谷	俊輔	
議	員	柏原	舞依
議	員	宮川	虎太郎